

## ブラジル サンパウロ州で野火が柑橘類農場に

[FreshPlaza 2024年8月26日](#)

ブラジル・サンパウロ州のライムの主産地は、著しい少雨が引き起こした干ばつによる野火に苦しんでいる。一方、同国の他の地域では、ここ数カ月で記録的な雨と洪水が発生している。

ブラジルの輸出業者ジャグラオ社の創業者の一人でCEOのセルジオ・ネグラン氏は、「サンパウロ州は深刻な干ばつに見舞われている。あちこちで火災が発生しており、特にサトウキビ農園が多い。これらはまるで火薬樽だ。火はライムやオレンジなどの他の農園にも広がり、多くの火災を引き起こしている。我々は緊急に雨を必要としている」と話す。

サンパウロ州はライムの主要な産地であり、他の多くの輸出果実も栽培されている。ネグラン氏は、「サンパウロ州では、栽培に必要な雨が降らないためライムがあまりない。同州は最もライムの生産性が高い州であるが、干ばつは生産に影響を及ぼしている。貯水池が干上がり灌漑ができない。北東部では逆に雨が多く、ライムは既に収穫時期を過ぎている」と述べている。

ブラジル国立宇宙研究所(Inpe)のデータによると、2024年1月1日から7月25日までに同州では1,649件の火災が発生し、これは2023年の同時期に報告された数の2倍以上であり、過去14年間で最多である。

長期的な気候変動予測は、同州にとって悪い知らせばかりである - 熱波は将来も続き果樹栽培を脅かす可能性が高い。州の地質研究所と環境保護機関(Cetesb)の研究者達は、同州の一部では気温が2050年までに最大6°C上昇し、熱波が150日以上続く可能性があるとしている。ネグラン氏は、「私の農場は干ばつの影響を受けているが、他の生産者は火事で農場を焼かれた」と述べた。

執筆者: クレイトン・スワート

(翻訳は情報の提供を目的としており、特定の企業や製品を推奨するものではありません。)

## (関連記事) サンパウロ州の野火 柑橘類への影響は最小限の見込み

[FreshPlaza 2024年9月3日](#)

Cepeaが報告したとおり、サンパウロ州の最近の野火は中北部地域を中心に様々な柑橘類産地に影響を与えた。しかし、懸念とは逆に、柑橘類の市場入荷量への影響は最小限であると予想される。被害を受けた面積は比較的小さく、土地所有者の迅速な対応は降雨と相まって火災を鎮めるのに役立った。サトウキビ等の他の作物は、より顕著な被害を受けた。

オレンジ市場は今年、限られた供給量と強い加工需要に牽引されて、生食用と加工用の両方で歴史的に高い価格を記録した。8月末までに、オレンジの樹上価格は100リアル(約2,600円)/箱(40.8kg/箱)に達した。一方、8月下旬の寒波により市場での消費者の購買活動は鈍化し、月末までにその傾向はさらに強まった。それにもかかわらず、生鮮市場の相場は、供給不足と加工用の高い契約価格に引き続き支えられた。

出典: [CEPEA](#) (サンパウロ大学応用経済高等研究センター)